

平成 29 年度 法学研究科入学試験問題（後期博士課程）

民事法学・公法学専攻（英 語）

受験 番号		氏 名	
----------	--	--------	--

以下の英文を和訳しなさい（イタリックによる強調は無視してよい）。

（出典：Brian Tamanaha, "A Concise Guide to the Rule of Law", Legal Studies Research Paper Series #07-0082, St. John's University School of Law, 2007, <http://ssrn.com/abstract=1012051>）

答案用紙別紙

平成 29 年度 法学研究科入学試験問題（後期博士課程）

政治学専攻（英 語）

受験 番号		氏 名	
----------	--	--------	--

以下の二問に解答しなさい。

問 1 以下の英文を日本語に訳しなさい。

出典：Stephanie J. Nawyn, “Refugee resettlement policies and pathways to integration,” Steven J. Gold and Stephanie J. Nawyn eds., *The Routledge International Handbook of Migration Studies*. London and New York: Routledge, 2013, pp.108-109.

答案用紙別紙

平成 29 年度 法学研究科入学試験問題（後期博士課程）

政治学専攻（英 語）

受 験 番 号		氏 名	
------------------	--	--------	--

問 2 以下の英文を日本語に訳しなさい。

出典: John Agnew and Luca Muscarà eds. *Making Political Geography*. Second Edition. Rowman & Littlefield Publishers, 2012, p. 1.

答案用紙別紙

平成 29 年度 法学研究科入学試験問題（後期博士課程）

共 通（スペイン語）

受 験 番 号		氏 名	
------------------	--	--------	--

以下を和訳して下さい。

出所：Rafael Grasa, “Nuevas miradas sobre la seguridad y la delincuencia transnacional,” *Nueva Sociedad*, no.263 (2016), pp.51-52. ただし、ごく一部、挿入的な文・語句を省略した（一つのカッコ部分の省略では、そこにコンマを挿入した）部分がある。なお、末尾は議論の途中で切られている。

答案用紙別紙

平成 29 年度 法学研究科入学試験問題（後期博士課程）

共 通（統計学）

受験 番号		氏 名	
----------	--	--------	--

1. x は区間 $[a,b]$ において一様分布する確率変数である。ただし、 $0 < a < b$ である。 $y = \sqrt{x}$ とする時、確率変数 y の密度関数と期待値を求めよ。

20 点

2. NBA(アメリカのプロバスケットボールリーグ)の選手の年俸(対数値)を、年齢や個人成績等の変数で回帰分析をしてみた結果が別紙の表1である。以下の問に答えよ。

- (1) 決定係数 (Multiple R -squared) および自由度修正済み決定係数 (Adjusted R-squared) について説明し、表1のそれらの値についても説明せよ。
- (2) 回帰分析においては、通常、誤差項にどのような仮定が置かれるか。
- (3) 在籍年数と年齢の係数から、これらの変数が選手の年俸に与える影響を説明せよ。ただし、個人成績やポジションは一定の値を取るものとする。なお、被説明変数は年俸の「対数値」であることにも注意せよ。
- (4) 在籍年数、年齢を一定とした場合、各種の個人成績が選手の年俸にどのような影響をあたえるかを説明せよ。
- (5) 被説明変数に表1の回帰分析で得られた残差の平方を、説明変数は表1の回帰分析と全く同じ説明変数を用いた回帰分析を行った。さらに、その回帰分析で全ての説明変数の係数が0である(定数項は除く)という仮説検定を行ったが、全ての係数が0であるという仮説は棄却できなかった。この検定の目的を説明せよ。また、この検定の結果、何がわかったかも説明せよ。
- (6) assists と rebounds の係数が共に0であるという仮説を検定するためにF検定を行った(表2を参照)。F統計量は0.0793であり、自由度(2,260)のF分布に従う確率変数が0.0793より大きくなる確率は0.9238である。これから何が言えるか説明せよ。
- (7) 上の(6)の仮説検定の原理を説明せよ。

(1)から(6)は各10点、(7)は20点

(別紙)

表1 回帰分析の結果 (被説明変数: lwage)

	Estimate	Std. Error	t value	Pr(> t)	
Intercept	6.422903	0.794622	8.083	2.4e-14	***
exper	0.117163	0.034471	3.399	0.000783	***
age	-0.050650	0.033999	-1.490	0.137496	
avgmin	0.031551	0.011900	2.651	0.008508	**
assists	0.012047	0.030546	0.394	0.693619	
points	0.036310	0.014093	2.576	0.010534	*
rebounds	0.001759	0.025669	0.069	0.945404	
forward	0.251825	0.116905	2.154	0.032151	*
center	0.293068	0.145983	2.008	0.045726	*

Signif. codes: 0 '***' 0.001 '**' 0.01 '*' 0.05 '.' 0.1 ' ' 1

Multiple R-squared: 0.5202, Adjusted R-squared: 0.5055

変数名一覧: lwage 年俸の対数値, age: 年齢, exper: 在籍年数, avgmin: 出場時間(分: 1試合あたり), assists: アシスト数(1試合あたり), points: 得点(1試合あたり), rebounds: リバウンド数(1試合あたり), forward (ポジションがフォワードなら1, そうでなければ0), center (ポジションがセンターなら1, そうでなければ0), ポジションのベースはガード。オブザーベーション数: 269。推定方法: 通常の最小二乗法。データの出所: Wooldridge, J.M. *Introductory Econometrics* Third ed., Thomson south-Western, 2006 の教材用データ

表2 assists と rebounds の係数がともに0という仮説の検定

	Res.DF	残差平方和	DF	残差平方和の増加	F	Pr(>F)
制約付き	262	99.941				
制約なし	260	99.880	2	0.06092	0.0793	0.9238

Res.DF: 残差の自由度, DF: 自由度の変化, 制約付き: assistsとreboundsの係数がともに0という制約